

会議・視察報告

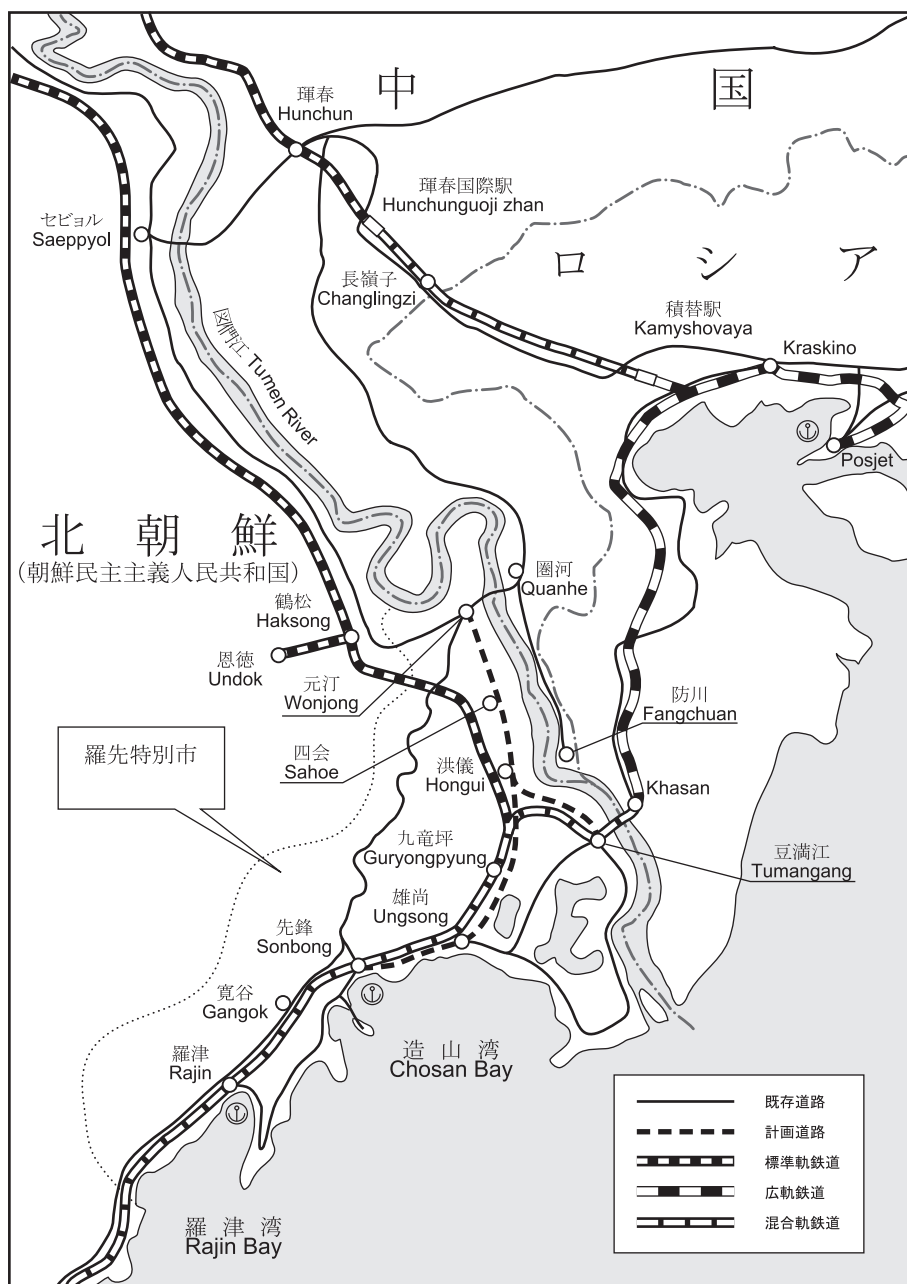
羅先經濟貿易地区訪問記

ERINA 調査研究部長・主任研究員 三村光弘

2011年8月16日～19日の3泊4日の日程で、北朝鮮の羅先經濟貿易地帯を訪問した。今回の訪問は、中朝共同開発、共同管理の枠組みのもとで、どのような經濟交流が進みつつあるのかを調査することが主目的であった。特に、改良

が進む元汀税関から羅津までの道路工事の状況や羅津港の使用、改良工事の状況、羅先市内の姿などを見ることができた。

地図1 羅先經濟貿易地帯付近の地図



(出所) ERINA作成

延吉から元汀税関（羅先の入口）への道のり

8月16日は、中国大陸に台風が接近し、前線の影響で中国の延辺朝鮮族自治州や北朝鮮の羅先特別市は朝から雨が降り続く、あいにくの天候であった。午後1時過ぎに延吉駅前のバスターミナルから、琿春行きのミニバスに乗り、琿春へと向かう。2010年9月に図們～琿春間的高速道路（G12：琿春～烏蘭浩特間高速道路の一部という位置づけ）が開通し、これまでバスで2時間半弱であった延吉～琿春間の所要時間は1時間弱短縮され、1時間半となった。料金は以前と変わらず26元（任意加入の生命保険0.5元は除く）となっている。バスは琿春市に入ると終点のひとつ手前の出口（終点は琿春市内をバイパスした圈河口岸、琿春口岸方面への道路に直接接続している）を出て、市内に入り、旧バスターミナルの前を通り、14時50分に今年1月11日に開業した琿春国際バスターミナルに到着した。

琿春国際バスターミナルからは、ロシア行きの国際定期バスが1日4便（ウスリースク×1、スラピヤンカ×2、クラスキノ×1）、北朝鮮の羅津行きの国際定期バスが1日2便出発する。

このバスターミナルから14時10分発の羅津行きのバスもあることにはあるのだが、羅先経済貿易地帯の長期滞在者ではなく、訪問者として招待状を持って地帯に入る場合には、原則として入国地点である元汀税関まで迎えに来てもらう必要がある。そのため、国際バスに乗っても元汀税関で降り、迎えの車に乗り換えることになる。また、中国側の圈河口岸で、乗客全員分の出国審査と税関審査が終わるまでバスは発車しないので、バスは走行時間以外のロスタイムが多い。そこで、バスターミナルからタクシーを利用して圈河口岸まで行き、圈河口岸から元汀橋（圈河橋）を渡って元汀税関までは徒歩での国境通過が禁じられているため、シャトルバスを利用（5元）することにした。

圈河口岸では、琿春口岸と同じく、出入国施設管理料として10元支払う必要がある。正規の料金なので、領収書が発行される。出国審査は、中国の他の口岸と同様、スピーディーに行われた。所要時間は辺境通行証利用で速い場合は20秒、日本を含む外国のパスポートだと1分程度のようなだ。出国審査終了後、税関検査を受ける。荷物をX線検査機に通すだけで審査は完了した。第三人の通過の場合、荷物の内容を詳細に尋ねられたり、開披検査を受ける場合もある。

手続終了後、北朝鮮に向かうバスに乗り込む。15分ほど待つがまだ出発しない。琿春発羅先行きの国際バスも停車しているが発車する様子がない。しばらくして、後ろに止まっている北朝鮮のバスが先に発車するとバスの乗務員が呼びに来たので、バスに乗り、5元支払う。バスは時速15

写真1 琿春国際バスターミナルの外観



(出所) 筆者撮影

写真2 琿春国際バスターミナルの時刻表(ロシア行き国際バス)



(出所) 筆者撮影

写真3 同（北朝鮮行き国際バス）



(出所) 筆者撮影

キロほどのゆっくりとしたスピード(制限速度は時速5キロ)で橋を渡り、朝鮮人民軍の警備ポストの前で停車し、警備の兵士が一人一人パスポートを確認してから発車し、税関入り口に到着した。中国側から北朝鮮側までの所要時間は約3分だった。

元汀税関での出入国、検疫、税関検査

元汀税関ではビザを持たない招待状での入国の場合、「出／入国手続票」という用紙に出入国、検疫、税関検査の状況を記録する方式をとっている。まず、検疫のカウンターで体温測定をすることになっているが、今回はインフルエンザの流行期ではないためか、体温測定はなく、検疫のスタンプがすぐに押される。その後、出入国審査のスタンプを押してもらい、税関検査を受ける。税関検査では、コンピュータや記憶媒体（USBメモリ、ハードディスク、DVD等）、出版物、カメラ、ラジオなどが主要な検査対象となる。

写真4 出／入国手続票の表面



(出所) 筆者撮影

写真5 同裏面



(出所) 筆者撮影

コンピュータは実際に検査官が操作を行いながら確認を行うため、5分から30分ほど検査に時間がかかる。その他の物品は荷物をX線検査機に通した後、開披検査を行い、5分～10分ほどで終了する。

元汀税関から羅津市内まで

元汀税関から羅津市内までは、約54キロあり、通常時で1時間半かかる。今回は道路拡張・舗装工事を行っており、一部区間が通行止めになっていたため豆満江、雄尚方面に20キロメートルほど迂回する必要があった。また、当日にまとまった雨が降ったために道路状況が悪化したこともあり、元汀税関を18時に出発、4時間半を要した。途中数カ所でトラックや観光バスなど大型車がぬかるみにタイヤを取られて立ち往生し、交通麻痺状態となっていた。筆者が乗ったタクシーは小型車だったため、現場を縫うようにして通り抜けることができたが、観光客の乗ったバスが羅津に着いたのは翌日未明の2時半過ぎだったと翌日聞いた。

写真6 道路拡張工事の現場事務所前の看板



(出所) 筆者撮影

写真7 現場事務所前のスローガン



(出所) 筆者撮影

立ち往生して停車している間に、道路拡張・舗装工事の現場をいくつか見た。単に道路拡張と舗装を行うだけでなく、山から水が流れてくる箇所には暗渠を設置し、安全に排水を行えるようにするなど、道路の安全性を高める工事が行われていた。今年は雨が多かったために工事が全体的に遅れているうえ、これらの工事に時間を要しており、羅津では初冬までに何とか工事を終えるめどが立っているとの話が多かったが、今年中の完工を危ぶむ声も延辺朝鮮族自治州では聞いた。

羅津港の現状

滞在中、羅津港を訪れる機会があった。見学時に、ロシアが第3埠頭の工事を9月から始めるという話を港湾当局の担当者より聞いた。まず520メートルほどある埠頭の先端の半分の工事から行い、その後根本の半分を工事することであった。ロシアのハサンから豆満江を通り、羅津に至る鉄道工事が間もなく完工し、引き込み線も含めて整

備が行われるだろう、とのことであった。

その他、港湾当局の担当者からは、次のような話を聞いた。羅津港には第2埠頭と第3埠頭に1基ずつ30トンクレーンがある。港には自家発電機が装備されており、国による電力供給が行われていなくても、クレーンは使用可能。中国企業「琿春創力」による石炭の積み出しは、これまで計5回行われ、1万7,000トンの石炭を船積みするのに約21時間ほどを要した。第1埠頭にある倉庫には琿春創力から施設管理のために5人ほどの人員が常駐しており、船積時には25人ほどで作業に当たっている。また、第1、第2埠頭の管理権は朝鮮側にあり、中国企業に第1埠頭の使用权が認められている。

第2埠頭には、船内でイワシの缶詰を生産することができる3万トン級のロシアの漁業母船が停泊していた。ウラジオストク港よりも停泊料が安いと、羅津港に停泊しているということであった。

写真8 羅津港第2埠頭の30トンクレーン（一番奥）



(出所) 筆者撮影

写真10 雄尚港



(出所) 筆者撮影

写真9 第2埠頭に停泊するロシア船



(出所) 筆者撮影

写真11 雄尚港の野積場の跡地



(出所) 筆者撮影

雄尚港の現状

羅先市には、羅津港のほか、石油タンカーが主に利用する先鋒港と雄尚港がある。今回、雄尚港を見学する機会を得た。雄尚港の港湾当局担当者の話によれば、雄尚港はもともと日本軍の軍港として作られ、水深4～5メートル、埠頭の基礎7.5メートルで1970年から旧ソ連から輸入される木材と石炭を内航船に積み替える港として利用されていた。旧ソ連崩壊後は輸入がストップし、現在では漁港として利用されているとのことであった。木材の野積場を含め、敷地面積が広く、旧ソ連からの広軌鉄道の引き込み線は現在は路盤だけが残っており、線路を敷設すれば利用できるようになるとのことであった。同港にはすでに中国、オーストラリア、香港などの企業が視察に来たが具体的な投資のプロジェクトはまだ決定していないとのことであった。

羅津市場を訪問

羅津市場は14時からの営業となっており、建物の中には

食品売場、衣類や電気製品などの売場があり、鶏やヒヨコ、羊などが屋外で売られていた。野菜や米は建物の外に屋根を設置したオープンスペースで販売されていた。水産物は市場の外壁に沿って屋根が設置されており、夏の暑い時期にもかかわらず生臭い匂いはせず、鮮度の高さを想像させた。市場は買い物客で賑わっており、販売員、客ともに、中年女性が一番多かった。

羅津市場には外貨交換所があり、人民元1元が395朝鮮ウォン、日本円1円が33朝鮮ウォンであった。米ドル、ユーロ、人民元、日本円のレートが掲示されていた。

豆満江駅からハサンへ出発

今回の訪問では、帰りは朝口国境の豆満江駅から列車でハサンに向かうルートを選択した。羅津市内から豆満江駅までは先鋒経由で約50キロ。2時間弱かかった。豆満江駅からハサンに向かう鉄道乗車券は、豆満江駅でしか発売されておらず、案内人が前日に豆満江駅まで行って予約を行

写真12 豆満江駅



(出所) 筆者撮影

写真14 朝口友好橋から見た中国領



(出所) 筆者撮影

写真13 豆満江～ハサンの乗車券



(出所) 筆者撮影

写真15 朝口友好橋から見た河口方面



(出所) 筆者撮影

い、当日ロシアルーブルの現金（280ルーブル、約840円）を支払って受け取るスタイルであった。

当日は16時20分発車のところ、14時30分より税関検査が開始され、簡単な開披検査（2分）とコンピュータ、記録媒体の検査（15分）の後、出国審査となった。豆満江駅では、代表団の名簿を提出しないと税関、検疫、出入国の検査を行わないシステムになっているらしく、案内人が私人のために代表団名簿を作成して提出していた。

列車はロシア鉄道の3等寝台車1両だけで、ロシア人20人、朝鮮人10人ほどが乗車していた。列車は定刻よりも1

時間5分遅れの17時25分に出発し、朝口友好橋を越え、ロシア極東地方時間19時40分（平壤時間17時40分）にハサン駅に到着した。

ハサン駅に到着後、駅舎内で入国審査と税関検査が行われた。ハサン駅での検査は、これまでのロシア入国地点の中で最も審査が迅速で、一人あたり約2～3分で終了した。税関検査は荷物を犬が嗅ぎまわる中X線検査機に通した後、持っている薬品類をすべて確認されたほかはそれほど厳しくはなかった。